

# キツネノカミソリ



三崎にて

(撮影：桐原真希)

## ■減っています！

三崎地区でこの花に出会った時、思わず「わー！久しぶり！」と声が出ました。千葉県流山市でその姿を見てから実に15年ぶり。濃い緑を背景に美しく映えるオレンジ色が印象的なキツネノカミソリ。一昔前は、どこにでもあった普通の花でした。しかし、ま

とまって咲き誇っている場所は、町内でも数カ所しか情報がありません。ヒガンバナ科の有毒植物で、朝鮮半島の一部と本州、四国、九州に分布し、世界的にも限られた場所

でしか愛でることができない花です。

## ■名の由来

キツネがカミソリなんか使う訳ないじゃない、そんなことを思わせるようなネーミングですが、由来には諸説あります。まず花の色がキツネの毛色に似ていること。しかし、茶色いホンドギツネの色と重ねるとやや離れた色合いです。また、やや赤味を帯びた明るい茶色の個体もいるので、まあよしとしましょう。そして、カミソリは春先に伸びる葉っぱの形からという説があります。昨今、市販されているカミソリはT字型のものが多くですが、日本剃刀は、柄の延長上に直線的に刃があります。その先端の丸みを帯びた部分が葉と似ているからだそうです。

## ■藪刈り草刈りで復活？

元々は、落葉広葉樹林の林床が好きな植物。人が草刈りをすることによって、人里の花として生育場所を広げてきた花と考えられています。しかし今は山林や田畑周辺などの維持管理が様々な原因で滞り、藪が発達して、キツネノカミソリを始めとする、明るい林床を好む多くの植物が減っています。既に東京ではキツネノカミソリは野生種絶滅のカテゴリーに入ってしまった。「昔は普通に見られたのに！」そんなセリフを聞かれる生き物が少しでも減ることを願っています。



雄しべの先は黄色い

自然観察指導員  
桐原真希

祐生出合いの館【緑水湖畔】 インフォメーション ■開館時間：9時～17時 ■休館日：毎週火曜日

板 祐生がガリ版刷りの私家本を創刊してから4年目、大正13年に発行した『懐徳誌』には、「この謄写版摺りの雑誌ほど労多く効の少ないものはない。それを摺るのも製本も一手でやるということは、実際を知らない人々には想像もつかないと思われる。それで出来上がりはこんなみすぼらしいものになる。けれどもこの私の手でやっているうちに、私の心に湧いてくる・・・恥かしくない」と述べ、心をこめていることを強調しています。絵柄は緻密ですが、まだ単色です。次の年に出した『江戸紫第五』では、原稿から製本まで優に百時間を費やしたと書いています。祐生の苦闘・苦悶は続きます。



『懐徳誌』大正13年9月発行